

『経営に役立つヒント』

令和七年八月一日

第二百六十七号

七月八日は、安倍晋三元総理が奈良で凶弾に倒れ亡くなって三年の命日でした。

昭恵夫人は、今七月八日という日を「七転び、八起き」と考えていると語られました。安倍元総理の、後を継ぐ人に対する期待を示されたのだと感じました。

世界情勢が厳しさを増す重要な時期に、日本の政治とりわけ自民党は、音を立てて崩壊する危機に直面しています。

人間力の基本である、歴史観・人生観・世界観も持たず、また意識も決断力も無い、一番なつてはいけない人間、石破が事もあろうに日本国の総理大臣の椅子に座りました。私の師である越智直正の口癖に「馬鹿な大将、敵より怖い」がありますが、まさにそれが現実になったようです。

また、政府を裏で操る「財務省」は、「プライマリーバランスの黒字化」や、「財政破綻の危機」という、誰もが文句を言えない正義を煽っては、消費税の増額を正当化して来ましたが、いよいよ、国民が財務省の洗脳から目を覚ましつつあるのが現状のようです。国益ではなく省益を優先し、財務省に都合のいいように代議士をレクチャーしてきた頭脳集団の化けの皮が剥がれる時がきたのです。

アメリカのトランプ大統領の、高圧的な関税圧力に、右往左往する政府高官のプリンシプルの無さは、到底一国を守る意識があるとは思えない体たらくです。

令和の米騒動で、正義の味方宜しく、小泉農水大臣の備蓄米の随意契約での放出は、将来を考えた正しい判断とは思えません。せいぜい参議院議員選挙目当てのパフォーマンスに過ぎないのでしょう。食糧安保の本質とは相容れません。

西郷隆盛は、遺訓集第二で「政の大体は文を興し、武を振るい、農を励ますの三つにある。その他百般の事務は、皆この三つのものを助けるの具なり。この三つの物の中に於いて、時に従い勢に因り、施行先後の順序は有れど、この三つの物を後にして他を先にするは更に無し」と教えています。

一、学問・教養・哲学を身に付けること。

二、軍備を整え、国を守ること。

三、農業や産業を興し、経済的に自立すること。

歴史に学ぶとは、当にこの事です。

さて、我々中小企業の社長は、この混乱期にどう対処するのか。

この五里霧中ともいえる混乱期を、ピンチと捉えるか、チャンスと捉えるか、社長の、日頃のビヘイビアが試されていると思います。

いずれにしても、大変化は、大きく変わる時でもあります。

ニコニコ明るく、先頭に立って、社員さんを勇気づけ、勝ち抜いて参りましょう。

今月のポイント

混乱期ほど歴史に学び

プリンシプルを身につけましょう

